

稲城野草散策の会

野草スケッチ キツネノボタン（キンポウゲ科）



1996/06/21 稲城市矢野口 絵と文 Ta

子供の頃はラジオ少年だった。

小学校のときに鉱石ラジオを組み立てたのがきっかけ・・・よくある話だ。

中学校のクラブ活動は迷わず「科学クラブ」へ入った。

クラブ活動ではラジオ組み立てもあったが、ガラス細工や化学実験なども覚えた。

野外へ出たの動植物採集（ドウランを持って採集するのが普通だった）もあった。

会報第69号 2010年9月4日発行 発行責任者 尼子 房夫

当時、電気回路の論理的な整合性に魅力を感じていた私としては、植物にはまったく興味を持てなかった。

電気回路なら計算できるが、植物なんてただ覚えればいだけで、計算も論理もないではないか、という感覚だったような気がする。

それでもクラブの部長をしていた関係で、野外採集行事には参加した。

先生が説明する植物名などは、上の空で聞いていただけで、覚えようという気にさえならない。

ただ、どんな草かは忘れたが、一つだけ印象に残った植物の名前があった。

その名前は、キツネノボタンである。

なぜ印象に残ったのだろう。

キツネとボタンの組み合わせに意外性を感じたのか、それとも当時流行っていた「ボタンとリボン」を連想したのかもしれない。

うかつなことに、T a少年はボタンという花を知らず、洋服についているボタンのことだと思っていたようである。

その後もなぜか名前だけは記憶に残り、植物からの連想でキツネノボタンが出てくることがあった。

キツネノボタンという名前と実物とが一致したのは、信州で家を建てて、植物を覚えだした頃（コマツナギの項参照）であった。

出会って見れば、ぎざぎざの実に見覚えがある。

子供の頃に「コンペトバナ」と呼んでいた記憶がよみがえった。

（コンペトは、金平糖のこと。ポルトガル語の confeito からきていることは後で知った）

コンペトバナは家の前を流れる用水路のほとりに咲いていた。水遊びをしながら花を見ている50年前の私がいる。実を摘んだとき、姉がなにか言った。「毒だから食べてはいけない」だったのだろうか・・・

そうか、これがキツネノボタンだったのか。

稲城へ来てから、この辺に多いのはケキツネノボタンだと教わった。

文字通りたくさんの毛が生えているほか、実の形も違うため、キツネノボタンとは別種になっている。

たしかに稲城のフィールドはケキツネノボタンばかりだ。

「キツネノボタンだってちゃんとあるんだぞ」と教えてくれたのは私の植物師匠、

故曽根先生であった。

穴沢天神社の女坂を登る途中に湧き水があって、湿地を好む植物がいくつか生えている。

その中にキツネノボタンが咲いていた。

ここに描かれたキツネノボタンは、莖に毛が生えている。

通常はほとんど無毛で、生えてもまばら、ぼちぼち程度だ。

これだけ生えていると、ケキツネノボタンと紛らわしい。

が、実の形状で「ケ」ではないことを確かめた。

毛の多いタイプをヤマキツネノボタンと呼ぶのだという。

なんともややこしい。

少年時代の夢はアマチュア無線の資格をとって、世界中の人と交信することだった。

中学校の頃、毎週のようにハムをやっている先輩の家を訪ねては、CQCQとやっているところを見せてもらっていた。

念願かなって、高校1年のときに当時の2級アマチュア無線技師の資格を得たが、とうとう開局しないまま、現在にいたっている。

高校の中で開局しようと電波管理局に申請を出したが、校長の反対にあって、申請を取り消す、ということがあった。

そのときを契機に、急速にアマチュア無線熱が冷めてしまったのだ。

取り消さなければ私のものになるはずだった、幻のコールサインはJAφJSである。

いま考えれば、ちょっと惜しい気がしないでもない。(2000年7月記)

* * * * *

〔観察記録〕 8月5日 バスハイク・池の平

調布駅前に集合したのは71人、2台の大型バスに分乗して定刻から10分ほど遅れて出発しました。中央道、圏央道、関越道、上信越道、と渋滞もなく順調に進みました。小諸インターで一般道に降り、道の駅「雷電くるみの里」でトイレ&買い物休憩を20分ほど。

クルミが東御市の特産品であることはすぐ分かるのですが、雷電だって、まあ江戸時代の東御市の特産品と言えなくはありません。雷電為右衛門は江戸後期の名大関、197cm、172kg、当時としてはとんでもない巨漢力士で、現代で言えば把瑠都とほとんど同じサイズです。現在より平均身長で15cm低かった江戸

時代では常識を超えた大型力士だったのでしょう。あまりの怪力に「突っ張り」「張り手」「門」「鯖折り」を禁じ手とされたにもかかわらず、生涯の成績は、254勝10敗、勝率は9割6分を超えます。昨年、白鵬は86勝4敗というトンデモ結果で年間最多勝記録を塗り替えましたが、この1年間の勝率は9割5分5厘、雷電の生涯勝率はそれを超えます。「じゃあ、なんで横綱になれなかったんですか？」と2号車の運転手さんから質問を受けました。私の年頃だと、ガキの時分は大抵少年雑誌の別冊漫画付録でこのテの知識を得ていて「雷電は対戦相手を死に至らしめたため横綱になれなかった」と半世紀の間、信じていたのですが、どうもそれは俗説らしく、この時代の横綱制度はようわからん、が正解みたいです。

話が脱線してしまいましたが、道の駅を出ると地蔵峠を目指してバスはひたすら登ります。地蔵峠の標高は1600m、尾根筋に入ってから更に登って池の平の駐車場に到着しました。この尾根筋の道にも色々な花が咲き誇っていましたが、それをゆっくり観察している時間的な余裕はありませんでした。駐車場に到着したのが11時半過ぎ、トイレが駐車場脇にしかないため、ちょっと早めの昼食タイムとなりました。監視小屋脇の寒暖計を見ると気温は23℃、このあたりの標高は約2000mですから、100mで0.6℃とすると下界は35℃となります。気温は快適なのですがピーカンの日差しは強く、日なたはさすがに暑い。

12時半にいざ出発。池の平湿原は数万年前の三方ヶ峰火山の火口原だったところに形成された高層湿原です。古い火口のヘリ部分を歩き始めます。村境の丘、雷の丘、雲上の丘といくつかのピークを経ながら、草原や林間を歩きます。小さなピークからは雄大な景色を見ることができました。南には小諸や上田の市街がはるか1000m以上下界に見下ろすことができます。東には池の平湿原、目を上げるとその先には高峯山、黒斑山（だと思う）などを見ることができます。「後ろにちょこっと見えるのが浅間山」との解説はさくら水さん。途中でキツネがいた！と追いかけるメンバーがいたようですが、見ることができたんですかね。実は1週間前下見に行った世話役はキツネと間近で対面しています。まだ人間の怖さを知らない若い個体のようなのでした。今回登場したキツネも同じ個体なんではないか。コマクサ園を過ぎてからは湿原に下り、木道で湿原を横断してこの日の観察を終了しました。

3時間ちょっとの観察コースでしたが、実にさまざまな植物を見ることができました。多くの参加者から「よかったー」との声をいただきました。今回も名札を貼っていただいた方、アナウンスをされた方、内山会長を助けて名札を回収していただいた方、皆様に感謝！です。

帰路は、中央道に入ってから渋滞に巻き込まれたものの、予定より20分程度の遅れで調布に戻ってくることができました。

以下にアナウンスされた植物を列記します。

▼観察記録（番号順）

(1)ノウゴウイチゴ、(2)ノアザミ(花)、(3)ハクサンフウロ(花)、(4)イワノガリヤス、(5)ヤマハハコ(花)、(6)コオトギリ(花)、(7)マルバダケブキ(花)、(8)シロバナニガナ(花)、(9)ヤマドリゼンマイ、(11)アキノキリンソウ(花)、(12)ワレモコウ(花)、(13)タカネナデシコ(花)、(14)シャジクソウ(花)、(15)ネバリノギラン(花)、(16)シシウド(花)、(17)ヘビノネゴザ、(18)マツムシソウ(花)、(19)ガンコウラン、(20)コケモモ(実)、(21)ミヤマホツツジ(花)、(22)ヤマブキショウマ(花)、(23)クロマメノキ(花)、(24)ツリガネニンジン(花)、(25)ミヤマウラジロイチゴ、(26)イワカガミ(実)、(27)アマニュウ(花)、(28)シュロソウ(花)、(29)グンナイフウロ(おわり)、(30)イブキジャコウソウ(花)、(31)グンバイツル(花)、(32)タカネザクラ、(33)オオヨモギ(花)、(34)ノガリヤス、(35)カワラナデシコ(花)、(36)ウスユキソウ(花)、(37)ミネカエデ、(38)イワインチン(花)、(39)カラマツ、(40)トモエシオガマ(花)、(41)ウラハグサ、(42)シラタマノキ(実)、(43)ハクサンシャクナゲ、(44)マイヅルソウ(実)、(45)ハナチダケサシ(花)、(46)コメススキ、(47)ズミ、(48)ミネヤナギ、(49)タチコゴメグサ(花)、(50)エゾスズラン(花)、(51)シラネニンジン、(52)ウスノキ、(53)ヤマホタルブクロ(花)、(54)キリンソウSP(ホソバナキリンソウのように見えました)、(55)ヒカリゴケ、(56)ホザキイチヨウラン(花)、(57)クモキリソウ(花)、(58)クガイソウ(花)、(59)ウツボグサ(花)、(60)ヤマオダマキ(花)、(61)レンゲツツジ、(62)カワラマツバ(花)、(63)シモツケ(花)、(64)コマクサ(花)、(65)コキンレイカ(花)、(66)シモツケソウ(花)、(68)エゾリンドウ、(69)ハリブキ、(70)バイケイソウ、(71)ノハナショウブ(花)、(72)アオヤギソウ(花)、(73)ヨツバヒヨドリ(花)、(74)キオン(花)、(75)オオヤマサギソウ(花)、(76)イワアカバナ(花)

他にクルマユリ(花)、ヤナギラン(花)、ギンリョウソウ(花)、イチヤクソウ(花)、ダケカンバ、などが見られました。(とーはもん)

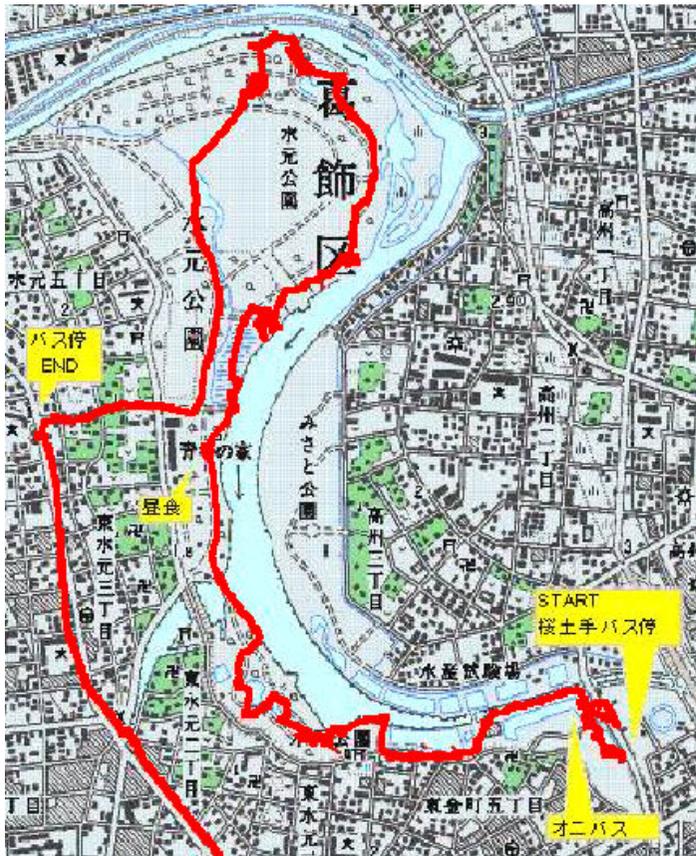
◆おしゃべりるーむ

稲城野草散策の会HPの「おしゃべりるーむ」にぼんこさんが西表の植物の写真をアップされています。機会があればご覧下さい。

右は川面を流れるサガリバナです。

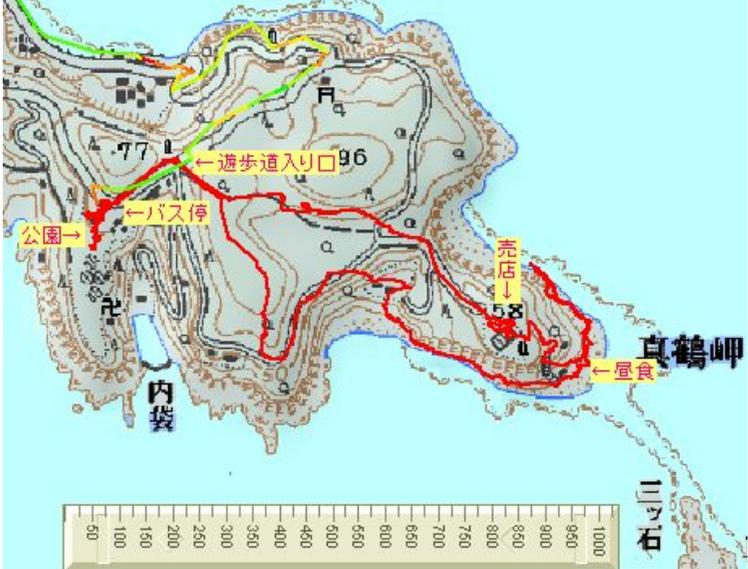


〔行事予定〕 2010/9/4 (土) 水元公園

項目	説明
集合	am10時、JR常磐線金町駅 南口 ※会旗目標 改札口は一箇所だけです
交通	JR常磐線、地下鉄営団千代田線をご利用下さい。 金町駅前から三郷団地行きのバス10：11に乗りますので、これに遅れないようにお願いします
行く先 (解散場所)	水元公園園内観察 JR常磐線金町駅 pm4時頃解散予定
見所 その他	目玉のミズネコノオのほかアサザ、ゴキツル、オニバスなどの水中～水湿地植物。秋の草花、公園内の樹木など
地図	
コース	JR金町駅南口→(バス)→桜土手→アサザの池→オニバスの池→公園内散策→青年の家(昼食)→公園内北上→ミズネコノオ自生地→公園内南下→公園入り口→バス停→(バス)→金町駅南口(解散)

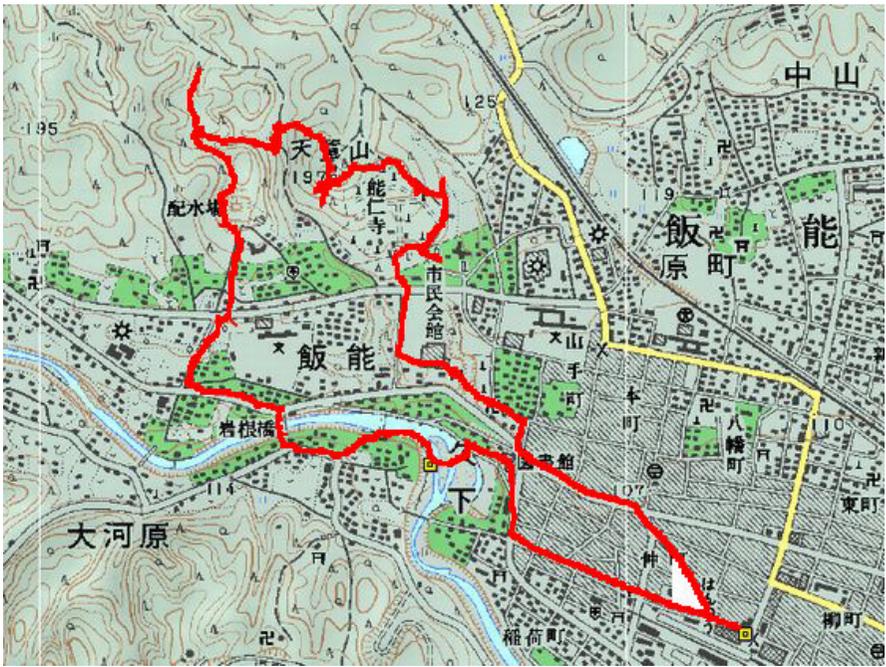
※小雨決行 参加申込み不要、会費当日300円

〔行事予定〕 2010/10/17 (日) 真鶴

項目	説明
集合	am10時、JR東海道本線真鶴駅 改札口付近 ※会旗目標 JR東海道本線真鶴駅の改札口は一個所だけです
交通	JR東海道本線（またはJR湘南新宿ライン）をご利用下さい 小田原まで小田急線を利用すれば安上がりです 真鶴駅発ケーブル真鶴行10:00のバスに乗ります 真鶴駅発ケーブル真鶴行09:30のバスで先行して、お林展望公園で待合せも出来ます 真鶴駅には10:15くらいまで世話役がいます
行く先 (解散場所)	真鶴遊歩道散策 (真鶴駅 pm4時頃解散予定)
見所 その他	海岸の植物、シダ
地図	
コース	真鶴駅 (10:00) … (バス) …中川一政美術館→十字路→森林浴遊歩道 (ムラサキニガナ) →番場浦遊歩道→潮騒遊歩道→海岸で昼食→ケーブル真鶴→お林遊歩道→十字路 →灯明山→十字路 (戻る) →中川一政美術館 (お林展望公園) … (バス) …真鶴駅 コースは天候その他により変更する場合があります ご用のある方は途中で抜けても構いません

※小雨決行 参加申込み不要、会費当日300円

〔行事予定〕 2010/11/14 (日) 天覧山

項目	説明
集合	am10時、西武池袋線飯能駅 ※会旗目標 ※小雨決行 改札口は一箇所です
交通	地下鉄副都心線 準急：澁谷8：39→新宿三丁目8：45→池袋（副都心線）8：51→練馬9：02→所沢9：26→飯能9：51 （西武池袋からは、練馬で乗り換えになります） 西武池袋線 急行：西武池袋8：50→所沢9：13→飯能9：37
行く先 (解散場所)	天覧山 西武池袋線飯能駅 pm3時半頃解散予定
見所 その他	木の実、草の実
地図	
コース	飯能駅→天覧山→飯能駅（15：30頃）

※小雨決行 参加申込み不要、会費当日300円